

大木茂 (動物資源経済学)

水野谷航 (食品科学)、加瀬ちひろ (動物行動管理学)

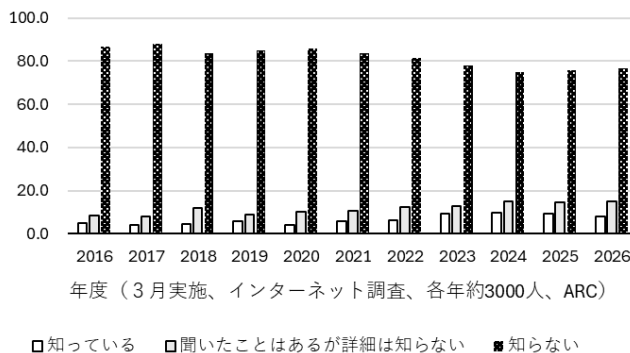
研究の背景

日本では、畜産動物に対するアニマルウェルフェア(Animal Welfare:AW)の認識が低いというのが定説となっている。右図にあるように、動物福祉の言葉を知らない人が8割近くに上るからである。これを背景に、日本の畜産AWの遅れを指摘するケースが多い。

この通説は誤っているのではないか？

日本人のAW認識は低いことはなく、畜産AWの遅れは政策・産業界の取組の弱さによるものではないだろうか？

「アニマルウェルフェア」あるいは「動物福祉」という言葉を知っていますか？



アプローチ

アンケート調査を数回行い、発見できたら……

まず、AWに関する意識調査を網羅的に収集します。これにはヨーロッパやアメリカなどの諸外国も含みます。そのうえで、日本人のAWに関する意識調査などを可能な限り収集して、その傾向を整理します。その上で、聞き方を工夫した日本人のAW意識の調査項目を作成します。それをインターネットアンケート会社が抱えているパネル(回答者集団)を利用してアンケートを実施しその結果を解析して、日本人のAW意識を的確に引き出せているかどうかを検討します。この作業を複数回繰り返して、通説をひっくり返せる根拠を見つけたいと思います。

期待される結果

一例として、左記のEUで実施された質問項目を日本で実施すれば結果を直接比較して違いが分かります

あなたの考えでは、飼育されている動物(豚、牛、家禽など)が適切な生活環境を確保できるようその福祉を守ることは、どれほど重要だと思いますか？

	EU27 平均	最多 Sweden	最小 Romania
非常に重要	52	81	30
ある程度重要	39	17	46
あまり重要ではない	7	2	20
全く重要ではない	1	0	3
わからない	1	0	1

EU, Special Eurobarometer 533(99.1), Attitudes of Europeans towards animal welfare, 2023.3

(わが国における)家畜の福祉は、現在よりもより良く保護されるべきだとお考えですか？

	EU27 平均	最多 Cyprus	最小 Romania
はい、間違いなく	45	68	25
はい、おそらく	39	27	44
いいえ、おそらくそうではない	11	3	23
いいえ、間違いなくそうではない	2	1	5
わからない	3	1	3

EU, Special Eurobarometer 533(99.1), Attitudes of Europeans towards animal welfare, 2023.3

アンケートは教員が研究上で契約するコースで可能な範囲に限られますので、本格的な調査というよりは、パイロット的なボリュームの調査になります。そこで新しい傾向が見つかれば、本格的な消費者調査の計画につなげることができます。もしもこれまでにない意識傾向が見つからないときは、これまでの通説の正しさを追認できた、ということで自信を持ってこれまでの通説の下での研究課題を検討することができます。このことは気になる可能性(リスク)を排除できた、という意味で重要な研究プロセスになります。

募集方法

3~4人を募集します。募集期間に担当教員に問い合わせてください。面談を行い決定します。アンケートを作成したりしますので、書籍・一般論文等を読んだり、質問項目を作成したりしながら畜産・AW・世界の社会経済などを主体的に学んでいきます。特に英語力を問いませんが、翻訳ソフトの訳した日本語を正しく疑うセンスを身に付けてほしいと思います。